●炭焼き体験の原木確保が進む　軽トラック 4 台分の内 2 台分確保できる

日本の歴史で明治時代以後、石炭が使用されるまでは里山の木材が生活の必需品として長い間燃料として使用されてきました。また戦後も薪や木炭として貴重な燃料でしたが石炭や石油、プロパンガス等の化石燃料の普及から需要が無くなることになりました。現在はわずかに伝統産業の技術伝承的に名残を残すことになっています。里山の会はこの技術伝承としての取組経験のために開催を毎年実施として開催しています。原木の切り出しからの取り組みを行いますので、お手伝いにお越しください。

写真は強風で倒れたものです

●竹サインペンの制作の傍ら竹の付けペンの注文がありました

竹サインペンの制作を知ってこのようなものを作っていただけないか、と相談がありました。私たちはいろいろ思案と施策を繰り返して、今の道具で注文相談を引き受けることにしました。調べてみますと市販価格は 2,000 円の販売価格で売り出されていて、すごく高価なものではないか思いましたが、竹ペン製作の経験を活かして試作すると出来栄えは十分なものになっていました。一部を納品してみようと思います。個性豊かな面白い墨字が掛けるものです。

●木津川希少種植生調査管理業務の業務報告書　下見点検を受ける

木津川の植物の生育は里山の会の調査では 917 種（八幡市からと加茂町の範囲で）であると判定判明しています。そのうち京都府が指定している絶滅寸前種は 8 種で主にその生育地を中心に植生調査と維持管理調査（除草）を 35 ヶ所 16,000m^{2}での作業結果をまとめての報告書が義務付けられているのでその作成が大仕事です。現地での作業前後の写真を添付することなっていますからその整理にひと工夫求められています。これまで刈草の収集作業に時間がかかりましたが、同志社大学のサッカー部ボランティアが支援に駆けつけてくれますので 12 月中にすべての作業が終了しています。報告書制作のみになり、大助かりです。2024 年度分も出来上がりました。

農園部会だより
４人で草木灰作り

● 1 月 18 日（土）里山農園にて

５号地に集められた草も残り僅かになったこともあり、14 日(火)には仮設トイレ付近で草刈りされた草木を５号地に運んでいただきました。また、18 日は昨年夏から秋に収穫したオクラやピーマンの株を１号地から５号地に運んで、昨年末からの主作業となっていた草木灰づくりの最終日となりました。

ご存知のように草木灰は肥料やジャガイモの種イモの切り口に灰を塗ることで腐りにくくするなどの効果があります。土壌が元気になってくれて、今年こそは大きくて美味しい野菜がたくさん収穫できることを期待したいものです。作業に関わってくれた皆さん、ありがとうございました。

写真は 安全に気を遣いながらの草木灰づくりの様子

京都環境フェスティバル　２月１日（土）9：45～16:00

場所：京都市伏見区の京都パルスプラザ　竹田駅下車（シャトルバスあり）

環境について楽しみながら学び考えることができる参加・体験型のイベントを開催することにより、地球温暖化防止、循環型社会の形成、自然環境の保全等の環境問題に対する府民の理解を深め、環境保全の意識の高揚や環境行動の実践につなげることを目的として、平成２（1990）年度より京都環境フェスティバルが開催されてきました。里山の会は農産物販売や活動を紹介してきましたが、今年は松かさツリー工作や竹サインペンつくりでの参加型と、アライグマやイノシシなどの獣害と、ヤマトサンショウウオの維持活動のポスター展示と中学生の昆虫観察のポスターでの参加を予定しています。どうぞ多くの皆さんのご参加をお願いいたします。

●国交省近畿地方整備局主催による協力団体の交流会の通達が来ました。

近畿地方の一級河川を中心にして河川活動を展開されている団体 25 組織が一堂に会しての活動交流会を開催してお互いに学び合う機会を 2 月 25 日に実現されることとなった、と連絡が来ました。参加団体はお馴染みの素晴らしい活動を展開されている立派な実績を持った団体ばかりなので、随分と参考になる活動が発表されると大きな期待をしています。